

なな山だより

なな山緑地の会会報 第18号 2010・1

ごあいさつ

あけましておめでとうございます。

なな山緑地の会の管理エリアも、一昨年、昨年と二年つづけて、大幅に広がり、トータルで2.7ヘクタールになりました。エリアの名称もなな山の西の山、中の山、東の山と命名されました。

中の山は昨年で倒木の整理も一段落し、今年から本格的な整備活動が始まります。

なな山のメンバーに余力があれば、さらに東の山も少しずつ手をつけていきたいと考えています。

例年通り、昨年も沢山の子供たちがなな山緑地を訪れ里山の自然を楽しんでくれました。

今年も多くの子供たちが来て、自然のなかで元気よく遊び、学んでくれることを楽しみにしております。

近年、やっと温暖化対策が地球規模で真剣に討議されるようになってまいりました。私たちの里山管理活動が少しでもこれらの環境対策のお役にたてればと考えております。

今年も、怪我、事故がなく、楽しく活動できますようお願いしております。会員のみなさま、地域のみなさまのご協力、ご支援をお願いし、ごあいさつとさせていただきます。

なな山緑地の会 会長 高木 直樹

今年も大勢の子供たちがやってきました



2009年12月12日、多摩第二小学校の「おやじの会」主催「雑木林で遊ぼう09」がなな山緑地で開催されました。毎年恒例の催しですが、今年は参加人員がぐっと増えて、第二小学校の児童70名、幼児15名、PTCAのお母さんが25名、おやじの会のお父さんが10名、合計120名がなな山緑地にやってきました。これを迎える「なな山」のスタッフ10名を加えると実に130名が参加する大イベントになりました。

毎年好評のカブトムシの幼虫採り、工作、ハシゴのぼり、オリエンテーション(宝さがし)に加え昨年からは始めた落葉掻きがいつの間にか、落葉を集める道具の箕(み)にのって、山の上から下の落ち葉囲いに向かって滑り降りる遊びになりました。子供たちは面白くて何度も何度も滑り降り、飽きることを知らない様子でした。



お昼のお弁当のときには、お母さんたちが美味しいトン汁を作ってくださいました。前日の雨が、うそのような快晴に恵まれ、スタッフ一同も一緒に遊んだ楽しい初冬の日でした。

(写真) 右 = ハシゴのぼり 左上 =

丸太切りに挑戦 左下 = 雑木林の材料で工作「お母さん手伝って！」
(2ページにつづく)



何回行っても楽しいのでまた行けたら行きたいです

「なな山」に遊びに来てくれた小学校3年生の村こし春なさんが作文と図画を書িয়েくれました。

なな山に行った

村こし 春な(多摩第二小学校3年)

十二月十二日私の家族みんなでなな山に行きました。私は二度目でしたがあとのみんなは初めてでした。なな山についたらさっそく木やどんぐりで工作をしました。



初めは写真立てを作ったり、木におえかきをしたりしました。おもしろい作品を作ったり木をのこ切りで切ったりしました。でもちょっとのこ切りをさわっただけで指を切ってしまいました。

後半は山で遊びました。大きなちりとりで山の上からすべるのが一番楽しかったです。オリエンテーションも楽しかったです。

何回行っても楽しいので、また行けたら行きたいです。



(写真)左 = 春なさんの絵「おちばすべり」 中、右 = 箕(み)に乗って滑る子供たち

広げよう会員の和

リレー随筆(18)

雲仙普賢岳に登って

岡本 昌児

2002年の秋、多摩広報に年齢制限のない山の会の募集がのっていたので申し込んだ。入会にあたり紀行文を提出してくださいとのこと、自分の記録は30年以上も前のものばかりで、どこかの山に登らなければと思い、いろいろ調べていたところ、2003年5月に休暇村協会より案内が届き、その中に長崎県の雲仙普賢岳のツアーがあったので申し込んだ。

5月18日9時30分に長崎県の諫早駅前に集合とある。5月16日の朝4時に自宅を出て、新幹線で岡山まで行き、駅前でレンタカーを借りる。その日は両親の墓参りと家内の親戚を回る。5月17日朝、海岸の近くを90分ほど歩く、8時半、宿を出て岡山でレンタカーを返し、博多まで行き、電車を乗り継いで諫早より1時間



ほどのところにある大崎温泉「くじゃく荘」に着く。5月18日朝9時30分諫早駅前に休暇村雲仙の車が来る。参加者5名、スタッフ2名の7名で行動する。9時40分国道57号(島原街道)を雲仙に向かう。小浜町から山道に入り、有料道路をしばらく進んで10時50分仁田峠の駐車場に着く。

11時15分に登山始める、仁田峠から上はミヤマキリシマの群落が山全体を覆い、赤紫、朱赤、淡紅などの花で埋まっていた。ロープウエーの終点を過ぎると登山者のみとなり、しばらく急斜面を登って行く。今日は曇り空だが時々雲の切れ目から山頂が見えてくる。13時10分、普賢岳(1359m)山頂に着く。ちょうど雲が切れて平成新山が目の前に現れて、しばらくの間新山を見ながら食事ができたのは幸運だった。

登山ガイドによると「1990年11月17日雲仙の主峰普賢岳が198年ぶりに噴火し、新たに標高1486mの平成新山が誕生、その火山活動も1995年には沈静化し、普賢岳登山も再開された」とある。

さて、次号はいつも静かに活動されている松本さんをお願いします。どうぞ、よろしく。

(写真) = 雲仙普賢岳と平成新山

クロモジ クスノキ科

Benzoin umbellatum rehd.

冬の雑木林では、独特の姿をしたクロモジの冬芽が見られる。先端のとがっているのが葉芽、脇の二つの丸い玉が花芽。春になるとクロモジは新葉とともに淡黄色の小花をくす玉のようにつける雌雄異株の低木だ。

なな山では西の山の奥斜面に生えているが、この木は雄木のように実はつかない。樹皮によい香りがあるため、和菓子を食べる時のヨウジに用いられる他、香料にも使われている。名前の「黒文字」は、樹皮上にある黒色の斑点を文字に見立てたものだろうといわれている。

この木の枝を集めてつくった垣根がある。京都、桂離宮の中門脇の垣だ。クロモジの小枝を束ね、二つ割りにしたマダケではさみ、シュロ縄で結んだもの。なな山で見るクロモジの木肌と少し違い、赤みを帯びてずっと伸びている。桂離宮では随所に雑木林の材が使われている。この離宮には書院群と四つの茶屋があり、茶屋のどれも草庵の造りだ。なかでも最も格調が高いとされている松琴亭は入母屋造り茅葺き屋根で田舎風。



土庇の柱は皮つきのアベマキで、欄間はタケ、スギ、サクラ、カキなどの小枝や角材を並べた連子。この茶屋では19種類にも及ぶ材が使われているが自然木をそのまま用いているのが特徴だ。材料選びに卓越した好き者の業のようだ。桂離宮は、後水尾上皇を中心とした識者のサロンの一人、八条宮智仁親王によって基礎が築かれ、その子の智忠親王によって整備されたもの。当時この宴では月を愛で、歌を詠み、舟遊びをするという雅な世界が繰り広げられていたが、自然木を使った質素な茶屋は、簡素さゆえに見えてくる豊かさを求めて設けられ、茶を点てたものと思われる。雑木林の木々を用いた造りの茶屋は、やわらかな光りとわずかな設えの空間にあって、誰もが解放され素の姿になれるにちがいない。なな山で誰もが自由にのびのびと素の姿で活動しているように。

土庇の柱は皮つきのアベマキで、欄間はタケ、スギ、サクラ、カキなどの小枝や角材を並べた連子。この茶屋では19種類にも及ぶ材が使われているが自然木をそのまま用いているのが特徴だ。材料選びに卓越した好き者の業のようだ。桂離宮は、後水尾上皇を中心とした識者のサロンの一人、八条宮智仁親王によって基礎が築かれ、その子の智忠親王によって整備されたもの。当時この宴では月を愛で、歌を詠み、舟遊びをするという雅な世界が繰り広げられていたが、自然木を使った質素な茶屋は、簡素さゆえに見えてくる豊かさを求めて設けられ、茶を点てたものと思われる。雑木林の木々を用いた造りの茶屋は、やわらかな光りとわずかな設えの空間にあって、誰もが解放され素の姿になれるにちがいない。なな山で誰もが自由にのびのびと素の姿で活動しているように。



(写真) 上右 = クロモジの冬芽 中左 = クロモジの花 中右 = 桂離宮中門の右側はクロモジの垣
下左 = クロモジの垣 下中 = 松琴亭外観 下右 = 松琴亭の欄間

Hisako のなな山レシピ (1) ヤツガシラの茎煮 ヤツガシラは茎が赤いもの

材料	ヤツガシラの茎	4~5本
	油揚げ	1枚
	ごま油	少々
	水	お好みで
	みりん	"
	醤油	"

作り方 いも茎の皮をむく(落と同様に)4~5等分に手で折る
水に充分漬けてアクを抜く
油揚げを細切りにする
水を切った茎と油揚げをごま油でいためる
水、みりん、醤油を入れて煮る
注意点 いも茎はアクが強いのでビニール手袋を使用するとよい。黒くなったらレモン汁で洗うと落ちる。

2009・10・11(日)快晴 気温25

台風18号で倒木や落枝があり処理に追われる。新チェーンソー活躍。リヤカー置き場完成。参加者11人。

「作業」台風で倒れたコナラの整理(写真右)。巻き添えで折れた隣の木も処理。台風で落ちた枝の整理。道路脇に散乱している落葉、落枝の清掃。リヤカー置き場完成。中の谷から中の山に入る階段を作る。

「観察」見つけた植物 = アザミ、カキの実。



2009・11・8(日)晴れ 気温15

サツマイモを収穫する。掘りたてを蒸かして試食。新導入の木登りステップで枝打ち。参加者15人。

「作業」サツマイモ収穫(掘りたてを蒸かして試食する、栗のようにホクホクして美味！)。収穫後の畑を耕す。下草の刈り払い。落枝拾い、道路沿いの掃除。ヒノキの枝打ち(写真左)。チェーンソー目立て。倉庫の整理。

「観察」見つけた植物 = コバノガマズミ、ヤマハギ、ナツハゼ、リンドウ。

2009・11・22(日)曇りのち小雨 気温8

朝から小雨の中、徐々に人が集まり曇り空の下の作業。参加者14人。

「作業」落枝拾い。草刈り(西の山、道路沿い)歩道の清掃。新導入のテントを設営、収納。シイタケ収穫。

「観察」見つけた植物 = ヤブマメ、ジシバリ、カラタチバナ、フユノハナワラビ(写真右)、ソバの花。



2009・12・13(日)曇り 気温13



サトイモ大豊作。トン汁のお昼。新会員(小野塚さん)入会、大歓迎！参加者15人。

「作業」サトイモの収穫(今年は大豊作！)。収穫後の畑を耕して堆肥をいれる。道路沿い、広場の落葉を集めて落葉囲いに入れる。

新導入のリヤカーが大活躍。

なな山産のナメコ、シイタケ、サトイモが入ったトン汁を作って皆で頂き収穫に感謝する(写真左)。

2009・12・23(日)晴れ 気温14

09年最後の活動。蒸かしたサトイモと味噌汁で昼食。参加者19人。

「作業」ダイコンの収穫(写真右)。タマネギとキャベツの苗植付け。中の谷の落葉囲いから堆肥を出し、空いたところに落葉を入れる。西の谷奥の人家に近い大木の伐倒(大木になりすぎて作業が難しく、ようやく上半分を伐採)。年末なので機械の整備と倉庫整理。

大豊作のサトイモを冬に備えて地中に埋めて保管する。

「観察」見つけた植物 = リュウノヒゲの実、キチジョウソウの実、シュランの花芽、ワタの実。



なな山だより 第18号
発行
発行責任者
住所
ホームページ
編集委員

2010年1月10日発行
なな山緑地の会
高木直樹
多摩市和田 1394 13
<http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/>
鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻

編集後記

あけましておめでとうございます。
今年中に「なな山だより」は20号を発行できる予定です。これからも会員のみなさまに愛される紙面づくりに一層の努力をして参りますので、ご愛読くださいますよう、よろしく願いいたします。K